

田園回帰現象の見られる過疎地における空き家と移住の関係の研究：瀬戸内海の離島、香川県男木島及び豊島における移住環境の比較分析

安部, 良

<https://hdl.handle.net/2324/6787618>

出版情報：Kyushu University, 2022, 博士（芸術工学）, 課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	安部 良		
論文名	田園回帰現象の見られる過疎地における空き家と移住の関係の研究：瀬戸内海の離島、香川県男木島及び豊島における移住環境の比較分析		
論文調査委員	主査	九州大学	教授 谷 正和
	副査	九州大学	教授 田上 健一
	副査	九州大学	准教授 井上 朝雄

論文審査の結果の要旨

本論文は、「限界集落論」「集落撤退論」消滅可能性地域などの地方から都市への人口流出に関する議論に関する議論に対して、これらの地方消滅論と逆の動きとして若者を中心とした農村地域への関心の高まりが指摘されるようになり、都市から山間部や離島などの過疎地への移住が少なからず発生している状況の中、新たな都市農村連携の新たな課題として取り上げられ始めている「田園回帰」現象を取り上げ、その要因を明らかにしようとするものである。

本論の主要研究対象地を香川県高松市男木島および香川県土庄町豊島とする。なお、男木島は単一集落であるため1地区のみ、豊島は島内に複数の集落があるため5地区に区分している。上記、隣接する2つの離島において、空き家の動態と移住者増加の関係から田園回帰の実態と要因を明らかにするため、空き家調査、移住者の動態調査およびアンケート調査を行い、分析を行っている。

分析の結果、男木島および、豊島の甲生地区では空き家を利用した移住者の増加が顕著に確認できるのに対し、甲生地区以外の豊島の4つの地区では、空き家の利用が進んでいない、又は移住者が増えていないといった状況にあることを確認した。上記分析をもとに、過疎高齢化が進む地域で田園回帰が起きる要因は、(1)地域の魅力、(2)地域共同体の特徴、(3)移住者と地域の連携、(4)行政・民間の施策、の4項目にまとめられている。(2)地域共同体の特徴は、空き家増加の危機感の共同体内での共有や、管理され利用可能な空き家のストックがあること、移住者と空き家を結びつける窓口機能の有無などを要素とし、(3)移住者と地域の連携は、(2)の項目から派生する二次的要因として、空き家利用を前提とした移住促進や、移住者同士のネットワークが構築されていること、移住者と地域住民の間で地域づくりに対する理念が共有されていることなどを要素とした。そして(3)の要因がみられる地域では、田園回帰の促進が顕著であることを明らかにしている。

上記のように、本論文は10年以上にわたる男木島及び豊島のフィールド調査に基づいた豊富な1次資料にささえられた説得力の高い充実した研究である。「田園回帰」現象はこの用語が使われ始めてまだそれほど時間がたっていないため、既往研究も少ないが、この研究が「田園回帰」研究の嚆矢となる可能性があり、田園回帰を実証的に検証したものとなっており、学問的価値は高く、論文調査委員会で合議の上、博士(芸術工学)の学位論文として合格と認められる。